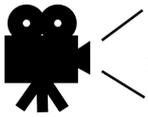


# CityLights

2011年  
会報 秋号  
No.32

目の不自由な方々と共に映画鑑賞を楽しむことのできる環境づくりをしています。

シティ・ライツ代表 平塚千穂子



ごあいさつ

まだまだ厳しい残暑が続き、巨大台風もやってくる異常気象の秋ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？7月に行われたシティ・ライツ10周年記念総会&パーティーから、もう2ヶ月も経ってしま

いましたが、その節は、たくさんの方々に10周年をお祝いいただき、ありがとうございました。改めて、活動をご支援いただいている皆様のあたたかいお心が身にしみました。そして、よい意味で初心に戻り、新たな気持ちで今後の活動をどう発展させていったら良いか…と考えつつ、秋を迎えたリーダーなのでした。

さて、総会前からの宿題として、まず「サポーターやボランティアが集まらない。」という問題が、役員会でも長いこと検討されています。そこで、まずシティ・ライツに興味を持って、ボランティア登録をして下さっている皆さんにアンケートをとって、ボランティア登録の継続意思確認や、鑑賞会への不参加理由、改善点について伺ってみました。

継続・退会的意思確認については、324名いたボランティア登録者のうち、継続希望者は133名。退会希望者は49名。お返事のない方（おそらくはメールを見ていらっやらない方）が142名という結果で、残念ながら約6割の方が、今回の更新を節目に、ボランティア登録を解除することとなりました。退会理由で圧倒的に多かったのは、「仕事や家庭の事情で時間が取れなくなった(39票)」でしたが、月日が経てば生活環境も変わっていくことですし、これはやむを得ないことと思います。でも、少数票でしたが、「参加のきっかけがつかめなかった(6票)」「会の雰囲気合わなかった(4票)」「活動内容が合わなかった(3票)」「興味のある活動の募集がなかった(1票)」という理由があげられていて、これはなんとかしなければなりません！まず顔をあわせて、活動の説明をするボランティアオリエンテーションを行うこと。また、はじめての人でも参加しやすい入門講座を行うなどして、まず参加への導入をしよう！ということで、早速、9月から第4土曜日の夜は、オリエンテーションと、ライブガイドや誘導の講習をやってみることにしました。

また、ボランティア登録を継続する方も含めて、シアター同行鑑賞会へ参加しなかった理由を伺ったのですが、回答で一番多かったのは、「スケジュールが埋まっていた(93票)」でした。同行鑑賞会は、劇場の上映スケジュールに左右されるものなので、早くから計画が立てられず、仕方のない部分はあるのですが、できるだけ早く情報を伝える工夫も必要ですね。次に多かった回答は、「作品に興味を持てなかった(43票)」「劇場が遠い(15票)」「同じ作品を既に観てしまった(13票)」でしたが、これはなかなか的をついた結果だと思いました。これまでの鑑賞会企画は、視覚障がい者からいただいたリクエスト企画か、個人やチームが気に入った作品、やりたい作品を企画するスタイルでしたが、リクエストをする人も企画者も増えていない現状があるので、どうしても趣味や劇場が偏ってしまいがちです。企画者を増やしたり、もっと広くリクエストを募ったり、作品や場所のバランスというのも考えて行かなければならないのかもしれませんが。また「未経験なので遠慮した(10票)」「誘導ボラとして参加することに抵抗があった(3票)」というのも少数票ですが、無視できない回答です。募集の際にいくら「未経験者大歓迎」とうたっても、どこかに参加を遠慮させてしまっている要因があるのでしょうか。「誘導ボラとしての参加に抵抗がある」という回答に関しては、「はじめての人が誘導ボランティアをやるべきではない。」「視覚障がい者には必ず介助者付きで参加してもらおうようにしよう。」など、様々なご意見をいただいているのですが、視覚障がい者と晴眼者の出会いと交流にも重きをおきたいシティ・ライツとしては、とても悩ましい問題です。ただ、以前から心配されていた、万が一の事故の補償をすべく、早速、ボランティア保険の加入手続きを行いました。

厚生労働省の「勤労者のボランティア活動に関する意識調査」によると、ボランティアを行う目的は、「人のために役立ちたいから(65%)」に次いで、「自分自身の成長のため(56%)」、「様々な人々とのネットワークを深めるため(43%)」だそうです。シティ・ライツの活動に参加して下さる方々には、「ああ、参加してよかった。」と心から言える、充実感を伴う幸せを感じ続けてもらいたいものです。だから、何か足りないことがあったら、どんどん言ってほしいです。皆さんから、今、いっぱい意見を聴きたいです。



## 活動報告

## ～同行鑑賞作品～

このコーナーでは、近日(7～9月まで)に開催された音声ガイド付き上映会や、同行鑑賞会をレポートします。参加された皆さん、企画者そしてボランティアの方々お疲れ様でした。

- ・ 『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーのマネジメントを読んだら』 7月3日 川崎チネチッタ
- ・ 『遙かなるふるさと一旅順・大連一』(岩波ホール) 7月11日 岩波ホール
- ・ 『メアリー・アンド・マックス』 7月17日 シネマ・ジャック&ベティ
- ・ 『小川の辺』 7月30日 川崎チネチッタ
- ・ 『鋼の錬金術師』 7月31日 川崎チネチッタ
- ・ 『人生、ここにあり!』 8月9日 シネスイッチ銀座
- ・ 『コクリコ坂から』 8月20日 川崎チネチッタ
- ・ 音声ガイド付きプロレス観戦 イノキ・ゲノム～スーパー・スターズ・フェスティバル 8月27日 両国国技館
- ・ 夏休み企画・音声ガイド付きショートフィルム上映会 8月28日 東京都障害者福祉会館
- ・ 『一枚のハガキ』 9月10日 ヒューマントラストシネマ有楽町
- ・ 『ハリー・ポッターと死の秘宝 PART 2』 9月11日 川崎チネチッタ
- ・ 『おじいさんと草原の小学校』 9月12日 岩波ホール



シアター鑑賞推進室へ

## インタビュー!!

### Q1 推進室は何人くらいのメンバーで活動しているのですか？

シアター鑑賞推進室のメンバーは現在1人です。はじめの3年間は、2人で組んでいて、4年目は3人に増えましたが、そのあとから1人です。一人推進室は3年目になりました。

### Q2 推進室はどのような活動をしているのですか？

シアター鑑賞推進室は、視覚障がい者と晴眼者が集まって、公開中の映画を映画館へ一緒にみに行くシアター同行鑑賞会の開催準備を、トータルでサポートしています。

同行鑑賞会は、ほぼ毎週末ごとに開催していますので、企画が申込まれてきたら、日程調整、劇場交渉、スタッフの募集、開催告知など、その他もろもろの手配をします。

映画館とシティライツとのパイプ役になっていますので、本番までの期間に、映画館の担当者と打ち合わせをしたり、鑑賞希望者の集まり状況を報告したり、鑑賞会の企画メンバーが事前にリハーサルできるようになど、様々な交渉事も、一手に引き受けています。

### Q3 映画鑑賞の企画が立ち上がったから、実際に上映会が行われるまでの工程を教えてください。

まず、この作品で企画を検討しよう!となったとき、映画の公開期間は、一般的に4週間と考えていますので、公開されてから4回目までの期間内に、鑑賞会を開催できる日が当てはめられるかどうか、ほかの鑑賞会との調整をします。更に、配給会社などが音声ガイドつきで行う上映会の開催はないのかもチェックします。

作品のリクエストが寄せられるときに、ガイドや字幕朗読、事前解説、受付といった担当スタッフも決まった上で、申請が届くと、すぐに劇場交渉に取り掛かります。スタッフ探しからスタートする場合は、推進室で、役割を請け負ってくださる方を探してコーディネートします。募集の呼びかけをして、誰からも協力が得られないときは、企画を立ち上げられないこともあります。

日程と作品とスタッフが決まって、映画館に仮予約ができれば、受付担当者が、同行鑑賞会専用アドレスに申し込まれてくる参加表明のメールを受け取れるように、転送設定します。それから、メーリングリスト上で、企画を応援して下さるサポーターを5人募集します。これは、同行鑑賞会を安全に楽しく行うために必要な人数が、ぎりぎり最低5人と考えて、運営を支えていただく意味で、まず最初にお申し込みをお願いしています。団体を引率したり、集金したり、ラジオを配布する以外にも、目が見える方のサポートが必要となる場面があるからです。

サポーター5人が集まって、正式に企画が成立すると、参加申し込みの開始となります。上映スケジュールが決まるまで少し間があるので、募集期間中は、視覚障害者と晴眼者の申込状況のバランスを見守ります。場合によっては、告知を出す時点で、鑑賞時間をお知らせできるケースもあるのですが、たいていは鑑賞会の4日か5日前ぐらいに決定しますので、確定する日に映画館へ電話をして、鑑賞時間を決めます。同時に、席を確保してもらおう都合上、参加人数の途中経過と、鑑賞会当日の予測人数を伝えます。

時間が決定したら、メーリングリストにお知らせを流して、締め切りまでラストスパート期間です。誘導ができる晴眼者の参加が少なかったり、全体的に申込状況が芳しくなかったりすると、このあたりで、メーリングリストにお誘いメールが流れてくると思います。

参加申込みが締め切りになると、受付担当者から推進室へ、確定人数の連絡がくるので、その人数を翌朝、映画館へ報告して、あとは鑑賞会の日をお待ちください。ここまでの期間中には、企画スタッフも動いてくれています。作品をより楽しく観るための事前解説がメーリングリストで紹介されたり、受付担当者から申込受理のメールが送られてきたり、本番で使う送信機を手配する人や、お茶会のお店を探す人もいます。音声ガイドと字幕朗読の担当者はもちろん、作品を何度か鑑に行き、時間をかけて準備してくれます。

いよいよ鑑賞会の当日。集合場所で全員合流して、誘導リーダーの指示のもとに、映画館へ向かいます。映画館では、一般のお客さんよりも先に場内へ入場させてもらうため、客席につくまでの待機時間は、団体行動のお作法を守りましょうね！トイレに行ったり、お買い物をするタイミングは、映画館の方から案内を受けたあとがベストだと思います。

映画鑑賞が終わったら、皆さんお楽しみのお茶会です。希望者は、お茶会の会場へ移動します。ここでは感想を語り合ったり、視覚障害の人は、わかりにくかったシーンを解説してもらったり、うまく説明できなかったガイドの言い訳コーナーがあったり、作品について、みんなでわいわいいろいろなことを言っちゃう場です。このお茶会が開きになると、一通りおしまいです。

#### Q4一番心に残っている企画(出来事等)はありますか？

よくお世話になっている、とても協力的な映画館でのことです。鑑賞会の開催準備を進めていく中で、あるきっかけから、配給会社や監督が途中参戦することになりました。ところが、監督側が求めてくる要求は、ライブ鑑賞会として、きびしい難しい条件だったため、中止の決断をしました。映画館から、鑑賞会の情報を聞いた配給会社が、監督にこういうイベントがあると伝えたそうです。監督から、台本チェックをしたという話がありました。

「ライブなので台本は作らない。」

「作ることは可能か？」

「可能だけど時間的に苦しい。」

「監督のご都合がつくのであれば、集まって練習している場面にいらしていただくか、もしくはその場景をビデオ録画したものを、送らせてもらいたい。」

結局、台本を作ってほしいという希望を変えてもらうことはできませんでした。そして、台本原稿の内容を、監督が認めてくれなければ、鑑賞会自体のNGも有り得ることになりました。

シティライツとしての活動は、映画館で映画を観たい！という視覚障害者がいて、少しのサポートがあれば、それだけで見える人も見えない人も一緒に楽しむことができるから、映画好きなボランティアの皆さんたちが、行為で場面の状況を説明してくれるんだということ。監督に納得していただけるようなクオリティーの高いガイドを制作することも、時間やいろいろな条件がクリアできればチャレンジしたいことではあるけれど、今のライブ活動としては、一本でも多くの作品を楽しみたい！という声のほうが強いので、サクッとガイドをつけるみたいなイメージで動いていて、目指すところは、一人でも多くの人に音声ガイド体験をしてもらって、ひとり立ちしてくれる人を発掘することに力を入れているみたいなことを話したと思います。

鑑賞会は断念せざるを得なくなってしまったわけですが、映画館の皆さんに、「ガイドのことにまで口を出してくるのはやりすぎではないか。」「制作側が、一人でも多くの人に観てほしいと言っていることと矛盾する。」と感じてくれていたようで、引き続き交渉し続けてくれたんです。映画館サイドの多大なるご尽力により、配給会社を通じて監督を説得していただく結果となって、ガイド台本を提出しなくても、鑑賞会を許可していただけることになりました。やるって言ったり中止って言ったりの企画は、最終的にたくさんの参加者と一緒に楽しむことができたのでした。ここまで親身になってくださった映画館の方々の暖かい気持ちには、本当に感激しました。

#### Q5辛かった出来事がありますか？

辛かったことはいっぱいありましたけど、みんな思い出の一場面となっています。作業に追われて、寝る時間が少なくなってしまう日が続いて、職場で眠ったとき。人手不足で、協力をお願いする声がけをさせてもらって、イエスもノーも、なんの反応も無かったとき。体調を壊したときもありました。年間を通じて、すべての鑑賞会に出向いていた時期は、たくさんの映画を観ました。片手で白杖をついて、もう片方の手で、十数キロある機材を運搬すると、平行感覚が無くなるみたいです。いつの間にか車道を歩いていること。交差点の真ん中で方向を失って、じぶんの居場所に気付くこと。何度もホームから線路に落ちそうになったこと。いろいろありましたあ

#### Q6これからの抱負や、皆さんに向けてのメッセージをお願いします。

同行鑑賞会のプランづくりは、皆さんからのリクエストがあってこそ成り立ちます。鑑賞する作品が増えると、映画館で映画を観る喜びが増えるだけでなく、映画を通じた交流の輪が広がります。そして、よかったら、視覚障害者と晴眼者が、映画を通じて楽しむ同行鑑賞会を、共に作りあげて行く楽しさも味わってみませんか？スタッフの一員になって、舞台裏の活動へ参加してみるのも、映画への関わり方が、一層おもしろく感じられると思います。

これからも、いろいろなジャンルの作品を観て、一緒に笑ったり、涙したり、その感動の余韻を、映画を愛する皆さんと共有しあっていきましょう！





ハリー・ポッター、ついに完結！！

こんにちは。メーマイオニー、ことめーたんです。

2001年冬に公開になった1作目『ハリー・ポッターと賢者の石』から10年、ついに8作目『ハリー・ポッターと死の秘宝 part2』をもって、映画版ハリー・ポッター・シリーズも完結を迎えました。

思えば10年間、8作に渡り、ガイド担当者も何人か入れ替わりながら、よくぞ1回も欠けることなく鑑賞会を続けてこられたものですね！そうは言っても、実は私、1作目『賢者の石』の鑑賞会のことは、もうあまりに昔のことで、どうやって計画したのかとか、私がどう関わったのかとか、よく覚えていないんです。覚えているのは、まだ映写室から電波を飛ばす方式になるより前のことだったので、一人の視覚障害者に一人の晴眼者が付いて、誘導だけではなく、その場で耳元にこそこそとささやきかけるといって、実に原始的な方法での鑑賞会だったということです。一組二組ならこそこそガイドも大した騒音にはならないでしょうけれど、十組二十組ともなれば、いくらこそこそ話していても、そうとううるさかったのではないかと、今なら冷静に想像することができます。

もう一つ覚えているのは、上映終了後のお茶会です。このときの映画館は銀座だったのですが、その近くに、当時企画者をして下さっていためんたいさんという方が勤めていらした有名な某ゲーム会社のオフィスがあり、その1室をお借りして楽しいひとときを過ごしたのです。中でも印象的だったのが、このめんたいさんのアイデアでの座る場所決めでした。くじを仕込んだ三角帽子を回して、引いたくじにより座るテーブルが決まるのです。と言っても、4組ではなく、グリフィンドールとスリザリンしかなかったと思うのですが、これは大いに盛り上がりました！私は確か、...スリザリンだったと思います。...ま、元々くじ運悪いんですけどね。(笑)

2作目『ハリー・ポッターと秘密の部屋』は大騒ぎでした！この頃には既に映写室からのライブガイドになっていまして、皆さんに安心して参加していただけたわけですが、それにしても人数が多かった！！100人以上の申し込みがあり、なんと、2回に分けての開催となりました！で、このへんの記憶が曖昧なのですが、少なくとも1回目はさとりちゃんのガイドでしたが、2回目がリーダーだったという説もあります。いや、そうじゃなくて、その2回とは別に、盲学校の子供たちを対象にした鑑賞会があり、それがリーダーのガイドだったという説もあります。ということは、全部で3回やったことになるのかな？

また、このとき私は、初めて、“事前解説”なる物を作ったのです。とにかく、「あばれ柳」などの用語を解説するのがとても楽しかったことを覚えています。

3作目『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』は、たらこちゃんがガイドで、二人でがっちりタッグを組んでのガイド作り&事前解説作りをやったのです。事前鑑賞にお付き合いしては、モニターさせてもらって、ああでもない、こうでもないガイドの研究をしていて、結果的に私は本番を入れて5回鑑賞したあげく、どうしても元の役者さんの声が聞きたくなくて、一人で字幕版を観にいくという暴挙もやらかしてました。成績の悪い乏しい英語力での鑑賞だったのですが、あまりにも回数を観たため、ちゃんとの声が誰だか区別して内容を把握することもできたのには、自分自身でも呆れてしまいました。

そして、5作目『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』からは、ダニー・コッター、こと檀鼓太郎氏がガイド担当となり、今に至るわけです。ということで、去る9月11日(日)、川崎のチネチッタで、ダニー・コッターさんのライブガイドの下、同行鑑賞会を開催しました。

最終回である今回の鑑賞会の参加者は40名。一頃よりはだいぶ減ってしまいましたが、それも無理からぬことかと思えます。何しろ、5作目『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』以来、お話がどんどん暗く重くなってきていたので、辛くなって参加しなくなってしまった人も多かったでしょう。

でも、最後まで見届けた今回の参加者の人たちには、大きなご褒美になるような素晴らしいエンディングが待ってましたね！悲しいこといっぱいあったけれど、ここまで観てきて、本当に良かったと思える終わり方でした！ここまでくると何を書いてもネタバレになりそうで詳しいことは書けないのですが、途中で挫折しちゃったままの方にも、いずれ必ず全作観ていただきたいと思えます。

今回、チネチッタ隣接のカフェが閉店になってしまったこともあり、どうせ場所を変えるなら、1作目の鑑賞会の際のように、周りに気兼ねが要らない、じっくりみんなと語り合える空間でお茶会をしたと思い立ち、カラオケボックスの1室を借りてのお茶会にしました。

私の読みの甘さからちょっと時間が足りないばばたした感じになってしまって申し訳なかったのですが、とにかく参加者全員の感想をじっくり聞くことはできました。そして、皆さんの満足度がとても高かったことも確認できて、私もほっとしました。

最後に、めんたいさんたち1作目に隣でこそこそガイドをして下さった皆さん、さとりちゃん、リーダー、たらこちゃん、そして檀さん、私たちをしっかりナビゲートして、ハリー・ポッターの世界を案内して下さり、本当にありがとうございました！！

また、誘導やラジオの貸し出しでお手伝い下さった皆さん、そして参加して盛り上げて下さった全ての皆さん、長らくのお付き合い、本当にありがとうございました！！



# 特集

## 映画祭をめぐる

### ～アジアの国際映画祭を知ろう～

何回か忘れました。今までヨーロッパ中心だったので、今回はアジアの映画祭をいくつか取り上げます。

#### 上海国際映画祭

1993年に設立された、主要国際映画祭の中で、最も若い映画祭の一つです。中国映画の中心である上海市は、上海映画祭を通し、中国映画と共に、世界の映画作品を中国・アジア諸国に紹介する機会を提供しています。上映する映画の中には、コマーシャル、ローバジェット、自主、短編、ドキュメンタリー作品が含まれています。

#### プサ>国際映画祭

1996年に設立された韓国初めの国際映画祭。新作映画及び、アジアの新しい映画監督や製作者を紹介すると共に、アジア映画の展開や世界での認知度を高めることを目指しています。ドキュメンタリー、アニメ、コマーシャル、自主、デジタル・アナログの幅広い映画作品を紹介し、若手フィルムメーカーを世に送り出す映画祭でもあります。

#### 香港国際映画祭

映画マーチ・文化を支援する非営利団体として1976年に設立されました。年間を通し、様々な映画関連イベントと共に、毎年、国際映画祭を実施します。2007年より、アジア映画監督を対象としたアジア・フィルム・フィクション・フォーラム共同製作企画マーケット及び、アジアフィルムアワード映画賞を実施しています。世界中から新しい事業や企画、作品を集め、新しい作品を紹介する場とすることを目指しています。

#### 日本映画受賞実績

2004年  
『犬と歩けば キオリとタムラ』  
森崎誠監督  
アジア新人映画部門最優秀作品賞受賞

2005年  
『村の写真集』  
三原光寿監督  
最優秀作品賞、最優秀男優賞

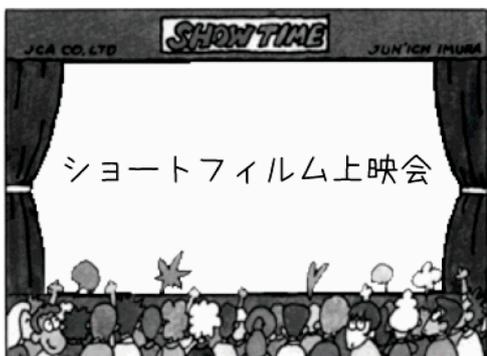
#### 日本映画作品実績

2004年  
『SURVIVE STYLE 5+』  
関口俊監督  
観客賞

#### 日本映画受賞実績

2005年  
『まる朝スウパ』  
高橋泉監督  
アジアデジタルビデオコンペティション  
受賞  
『阿智の記憶』  
佐藤真監督  
Humanitarian Awards for  
Documentaries 賞受賞

<概要>(ウィキペディアより)



去る8月28日、田町障害者福祉会館にて夏休み企画・ショートフィルム上映会が行われました。普段見ることの少ないショートフィルムに惹かれ、自分も参加させていただきました。上映作品は2作品。限られた時間の中でも、映画的な興奮を大いに感じる事が出来ました。監督から面白いお話も聞けて、満足な一日でした。

最初に上映された「著者近影(ちょしゃきんえい)」、高橋雅輝(たかはしまさき)監督に原稿を頂いています。以下、掲載します。(文・吉川 俊平)

とある上映会に参加して数日後。会の主催者からメールが来た。  
「作品のDVDを欲しいという方がいます」  
たかだが数分の、しかも手作り感満載の自主映画を、着払いでもいいから欲しいと言ってくれる気持ちが嬉しく、いっそお会いして、手渡します、というお返事をした。

山崎さんと出会い、シティライツという団体を知り、さらには上映会までしていただく、きっかけである。「絵で見て、楽しませる(音の役割の大きさは馬鹿にできないのだけど)映画を、音だけでどう表現するのだろう?」伝わりきらないんじゃないか。という不安は意外に最初からなくて、純粋に音声ガイドってどんな物だろうと楽しみに、上映会に伺った。

何十回と観た拙作「著者近影」を、目をつむり、初めて音だけを頼りに観た。心地よいトーンガイドが、的確にビジュアルを伝えていた。その上「大笑いする程じゃないけど、ほのかに笑える」という作品の微妙な空気感までも、間の取り方や単語の選び方で表現されており、僕は大変楽しめた。当日会場にいた皆様が、僕以上に作品を楽しんでいただけていれば、これ以上嬉しい事はありません。

今回は素敵な機会を作ってくれて有難う。「著者近影」作者、高橋雅紀でした。

#### <作品の説明>

「著者近影(ちょしゃきんえい)」。

高橋雅輝(たかはしまさき)監督による9分の作品。

とある小さな文学賞を受賞した男が、カッコいい自分のポートレートを撮ろうと、あれこれ試みますが、どれも気に入らない。

結局、出版社に送った写真は...?

せりふはなし、音楽と効果音だけで構成された洒落た、でもほのぼのとした余韻の残る映画です。



### 思い出の映画

## 一思い出は、名画とともにいつまでも一。

このコーナーでは“思い出の映画”にまつわる投稿エッセイをご紹介していきたいと思います。皆さんの汗と涙の人生をセピア色に彩る素敵な名画の数々をエピソードと共に寄せ下さい!

(渋谷チーム 水間)

1番思い出深い映画は、スティーブン・スピルバーグ製作、ロバート・ゼメキス監督「バック・トゥ・ザ・フューチャーtwo」です。主演は、マイケルJフォクス、クリストファーロイドでした。第1作バック・トゥ・ザ・フューチャーoneは、当初あまり興味が無く、TVでみることしかありませんでした。しかし、TVで見た作品が非常に面白かったので、次作は映画館に足を運ぼうと思いました。この映画でまず驚いた事は、撮影技術もさることながら、役者の面白い演技でした。当時「ファミリータイズ」で、人気のあったマイケル・J・フォクスです。コミカルなお芝居で、飽きなかった事を覚えています。

続いて、「漂流教室」です。これは、1987年公開作品です。監督 大林宣彦、音楽 久石譲です。原作が「まことちゃん」の、楳図かずおでした。なぜか今井みきの、主題歌「野生の風」ばかりが、印象に残っています。当時を思いかえすと、バブル経済の最後だったんだなあ〜と、懐かしく思います。吉野家が、並盛り¥400でした。今では、考えられないですね。

後は、宮崎駿監督「紅の豚」です。「風の谷のナウシカ」「天空の城ラピュタ」「となりのトトロ」が、大盛況で当時、脳障害のボランティアの参加で、観に行った事を覚えています。

映画は、時代の風俗的な感性で、創られていくものだと思うのですが、物凄く時世も変化したなあ〜と思います。10代で観に行った作品、20代で観に行った作品、30代で観に行った作品、色々思い返すと懐かしい思いがします。いくつかありましたが、最後に時代的にかなり古いので、映画館には観にいけなかったのですが、「アパートの鍵貸します」です。これは、1960年作品です。主演 ジャック・レモン、シャーリー・マクレーンです。当時、レンタルビデオが流行り出して、洋画でも、面白い作品があるんだなあ〜と映画を観る楽しさを、教えてくれた作品でした。色々ありましたが、これからも良い映画が、観れば幸せだなと思う、今日この頃です。

(シティ・ライツ会員 菊池)

私が、CLCCの映画鑑賞会で一番印象に残っている作品は「海猿」です。この映画の一番最初は、海上自衛隊員になるための養成学校が舞台となっており、そこで、海上自衛隊員になるための厳しい訓練を受けながら、周囲の人からは、「ダサイ」とか「海猿」とか「国の税金で給料をもらって胡坐書いている奴ら」と揶揄されながらも自分の選んだ道、突き進もうと思った道に誇りを持って、プライドを持って、まっしぐらに進んでいく姿勢に心を打たれました。やがて、彼らも学校を卒業して現場に向かいます。そして、この映画のファイナルを迎えようとした時です。隊員の一人が海で遭難した人を救助しようとして、命綱と酸素ボンベをもって海中深くまでもぐりこんでいきました。その隊員は、学校で教官から「どんなことがあっても最後まであきらめない」という言葉を思い浮かべながら、その人のことを何とかして助け出そうとします。その隊員が搭載している無線から司令員がその隊員の名前を呼び続けているシーンがありました。本当に私自身、ハラハラドキドキさせられました。それとともに「最後まであきらめない」ということをこの映画から教えていただきました。

私は、現在、千葉で医療保険を使った在宅介護老人のための訪問マッサージの治療院で働いています。ここ最近まで、お客さんがいなくて本当に困ってしまい、転職を考えました。その時にこの「海猿」を思い出しまして、私も何とかしてお客さんを増やして頑張っていこうという決心ができました。これも、この映画のおかげです。これからもよろしく願いいたします。



## お知らせ

### ■新規会員のご紹介

(2011年7月1日～2011年9月25日までにご入会いただいた方々です。)

[正会員] ・湯山慎治(神奈川県横浜市在住) ・南波祐子(神奈川県横浜市在住)

[賛助会員] ・高野 愛(埼玉県入間郡在住)

### ■調布シネサロン “イカすぜ青春！石原裕次郎特集”「銀座の恋の物語」の音声ガイド付き上映を行います！

日時:10月18日(火曜日) 上映開始:14:30～/19:00～ の2回。(音声ガイド付き) ※各回 30分前開場

場所:調布市グリーンホール(京王線調布駅中央口よりすぐ)

鑑賞料:無料 主催:調布市文化・コミュニティ振興財団 協力:シティ・ライツ

上映作品:『銀座の恋の物語』(1962年/日本映画/94分)

監督:蔵原 惟繕(くらはら これよし) 出演:石原裕次郎、浅丘ルリ子、ジェリー藤尾、江利チエミほか

(あらすじ) 新進の画家、伴次郎は恋人、秋山久子との結婚を決意するが、久子は交通事故に遭って記憶を喪失してしまい、伴次郎の前から姿を消す。数年後ようやく久子を探し当てた伴次郎は、久子の記憶を取り戻そうと、必死に努力を続けるが…。山田信夫と熊井啓の脚本は、久子の記憶を取り戻すまでの過程に二重、三重のひねりをきかせ、構成の巧みさは心憎いばかり！

※音声ガイドをお聞きになる方は、FM ラジオをご持参ください。周波数 FM88.5MHz で音声ガイドをお聞きになれます。

(当日受付にてラジオの貸出もあります。)

※調布駅から誘導をご希望の方は、事前にシティ・ライツ事務局までご連絡ください。

### ■ TFF TOKYO 第 24 回東京国際映画祭 にて、初のバリアフリー上映！

『幸福の黄色いハンカチ』バリアフリー上映後の山田洋次監督を囲んでの座談会に、シティ・ライツのリーダーこと平塚代表と副代表のノンちゃんが登壇します！

日本一の映画のお祭！といっても過言ではない、あの東京国際映画祭で、今年はじめてバリアフリー上映会が実施されるそうです！NPO 法人メディア・アクセス・サポート・センター(MASC)さんのご尽力により、映画産業界を横断して、映団連、東京国際映画祭、映連、外配協、全興連、日映協などの業界団体が後援。ユニジャパンの主催により、10月22日より開幕される「2011年 第24回 東京国際映画祭」の期間中に「視聴覚障害者のための『映画』の在り方を考えるシンポジウム」と、『幸福の黄色いハンカチ デジタルリマスター版』のバリアフリー上映会が実施されます。上映後の山田洋次監督を囲んでの座談会には、シティ・ライツのリーダーこと平塚代表と、副代表のノンちゃんをはじめ、副音声活弁士の佐々木亜希子さん、あらゆるコミュニケーション手段を楽しめる「手話リングル」を広めている中途失聴者の松森果林さんが登壇します。



東京国際映画祭バリアフリー上映会へのお申し込みについては、後日、メーリングリスト等でお知らせします。是非、皆さんご来場下さい。

第24回 東京国際映画祭『幸福の黄色いハンカチ』バリアフリー上映会

日時:2011年10月28日 14:50～(本編108分) 会場:TOHO シネマズ 六本木ヒルズ スクリーン8

### ■ NPO・ボランティア基礎講演会「映画の音声ガイドづくりを体験してみよう！」のご案内

北区NPO・ボランティアぷらざが主催する基礎講演会で、シティ・ライツが映画音声ガイド台本づくりの体験講座を行います。区外の方でも参加できる講演会ですので、興味のあるかたは是非、ご参加下さい。

日時:2011年11月19日(土) 14:00～16:00 場所:北とぴあ 15階 ペガサスホール(東京都北区王子1-11-1)

定員:60名(先着順) 参加費:無料 申込方法:電話またはFAXにて、<11月12日までに>お申し込み下さい。

お申込み・お問合わせ先: 北区NPO・ボランティアぷらざ 電話:03-5390-1771 FAX 03-5390-1778



## 編集後記

編集スタッフ・イラスト描きやレイアウトデザインのスタッフも大募集！希望の方は会報編集課まで！

### （会報編集課 ノンちゃん）

9月17日、第4回したまちコメディ映画祭でプレミア上映された「サラリーマンNEO劇場版(笑)」を観てきました。と、書いてある今は締め切りを過ぎているのですが…、編集長ごめんなさい。「サラリーマンNEO」はNHKで放送中のドラマ？実は私は全くその存在を知らずに、したまちコメディ映画祭で音声ガイドつきで観られるというので、なんだかわけも分からずすぐさま申し込みをしました。例えなんだかわからずとも、プレミア上映。公開前の作品を観られるわけですし、こういうときには監督や出演者の皆さんの声を生で聞けるかもしれないではありませんか。これは行かない手はないというわけです。

作品の内容については多くは語りませんが、なんていうか「おぼかだねえ」と思いながら止められないとでもいいでしょうか？できることなら、もっと小さな劇場でギョッと詰まって笑ってみたかった気がしてなりません。それにしても、このようなイベントに音声ガイドがついたことに大いに意味があると、大変嬉しくなりました。ここにこぎつけるにはいろいろとご苦労もあったと漏れ聞いています。本当にありがとうございました。

### （会報編集課 石坂）

文章を書くのは初めてだと思います。はじめまして！映画祭辺りから関わらせていただいています、石坂です。宜しくお願いします。さて、気が付けばもう9月も残すところ後わずかとなりました。夏休みの終わりを指折り数え、ヒシヒシと成績通知の恐怖感じている大学生であります。

先日、小学4、5年生を対象とした2泊3日の「てらこや合宿」の班付きスタッフボランティアというのをやってきました。ご飯も遊びもお風呂も寝るのも一緒。遊びと言っても1時間のアスレチックはなんのその、ケイドロ、かけっこで走りっぱなしの3日間に体は悲鳴をあげていました。本気で子供たちを向き合うのは本当に大変なのが分かった反面、元気なパワーや純粋で無邪気な心を目の当たりにして、忘れかけていたものを思い出した気がしました。私の10代最後の夏、まだまだ色々やれるんじゃないかって思っている今日この頃です。

### （会報編集課 吉川）

みなさんこんにちは。震災が起きて、半年。9.11から10年がたちました。時の流れの速さを年々強く感じます。（夏号でも書いた）勤め先の節電シフト（土曜出勤・月曜休み）ももうすぐ終わりです。普段混んでいて行きづらい美術館めぐりなんかを考えていたのですが、美術館は月曜休みでした。それに変わる計画も思いつかず、月曜を有意義に過ごそうという自分のプランは見事に崩壊。もし来年の夏も節電シフトになったら、今年の反省を生かしたすごし方をしたいなと思います。

8月に、永遠の零という本を読みました。話題になった本なので読まれた方も多いかもかもしれませんが、評判どおり完成度の高い作品でした。ゼロ戦のエースパイロットだった祖父の人物像を探るべく、祖父と関わりのある様々な人について話を聞くうちに、なぞに包まれた祖父の意外な姿を知ることになる…という内容。戦争について深く知ることにもなったし、サスペンス小説としても楽しめました。500ページくらいの作品でしたが、一気に読んでしまいました。ご一読をお勧めします。

お忙しい中、今回の会報作成にご協力いただいた方々には、大変感謝しております。ありがとうございました。皆さまの投稿を、心よりお待ちしております。宛先は、[kaihou@citylights01.org](mailto:kaihou@citylights01.org)。次回の発行は1月10日。投稿される方は、12月第2土曜日までをお願いします。『会報のデータ送信』を希望の方には、会報のテキストメール送信にも対応します。ご希望の方がいらっしゃれば、会報編集担当アドレス <[kaihou@citylights01.org](mailto:kaihou@citylights01.org)>まで、氏名と会報の送信を希望するメールアドレスを記入して、お申し込みください。

2011年 秋号 10月10日発行 編集:吉川俊平 斉藤恵子 レイアウト・編集:石坂春香

発行者:バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ

事務局:〒114-0016 東京都北区上中里 1-35-15 TEL&FAX 03-3917-1995

E-mail [mail@citylights01.org](mailto:mail@citylights01.org) URL <http://www.citylights01.org>

